

戦後詩選

潮流詩派の三〇年・1955—1985

● 村田正夫編

村田 正夫
加賀谷 春雄
伊豆 太朗
重国 林
平田 好輝
喜多 行二
竹田 日出夫
秋吉 久紀夫
まちえ ひらお
広井 三郎
上山 ひろし
下山 嘉一郎
しだの ぶお
猪俣 則幸
西中 行久
江波 戸敏倫
富田 満穂
柳 光昭
内田 麟太郎
川端 進
戸台 耕二
石毛 拓郎
渡辺 三郎
音上 郁子
麻生 直子

中森 美方
甲田 四郎
印堂 哲郎
藁谷 久三
長谷川 和義
神谷 毅
高山 和枝
大平 璋
平野 利雄
安藤 信宏
タマキ ケンジ
鈴木 茂夫
須田 浅一郎
仲宗根 清
藤原 治
長谷 豊
閣田 真太郎
高橋 和彦
江良 亜来子
水谷 誠二
吉田 梨絵子
小林 邦子
吉田 啄子
若狭 麻都佳
佐伯 悠子

肥後 肥後
松尾 松尾
崎崎 崎崎
熊谷 熊谷
鈴木 鈴木 豊
高原 高原
岩渕 岩渕
本橋 本橋
広尾 広尾
荒木 荒木
原 原 冬
高橋 高橋
入船 入船
小倉 小倉
島田 島田
黒林 黒林
本坂 本坂
杉本 杉本 し
森谷 森谷
亀井 亀井 満
井桑 井桑
高村 高村
杉村 杉村
小坂 小坂

潮流出版社のアンソロジー

- 1957 潮流詩派詩集 1957年版
1960 潮流詩派詩集 1960年版
1965 潮流詩派詩集 1965年版
1970 現代風刺詩集
1980 一九八〇年詩集
1982 風刺と笑い
1984 戦争の匂い
1985 戦後詩選 潮流詩派の三〇年

アンソロジー

戦後詩選 潮流詩派の三〇年

2500円 ©

1985年11月20日

編 者 村田 正夫

発行者 麻生 直子

発行所 潮流出版社

東京都中野区鷺宮 3-9-5

振替 東京 1-66562

電話 東京 337-2237

ISBN 4-88525-008-0 C0092 ¥2500E

選時后戦

潮流詩派の三〇年

1955—1985

村田正夫編

潮流出版社

村田 正夫	中森 美方	肥後 敏雄
加賀谷 春雄	甲田 四郎	松尾 茂夫
伊豆 太朗	印堂 哲郎	尾崎 義久
重国 林	藁谷 久三	熊谷 直樹
平田 好輝	長谷川 和義	鈴木 豊志夫
喜多 行二	神谷 毅	高原 脩
竹田 日出夫	高山 和枝	岩淵 欽哉
秋吉 久紀夫	大平 輝	本橋 克行
まちえ ひらお	平野 利雄	広尾 蘭
広井 三郎	安藤 信宏	荒木 敏介
上山 ひろし	タマキ ケンジ	原 冬木子
下山 嘉一郎	鈴木 茂夫	高橋 仁
しだの ぶお	須田 洩一郎	入船 映子
猪俣 則幸	仲宗根 清	小倉 又夫
西中 行久	藤原 治	島田 穂波
江波 敏倫	長谷 豊	石黒 忠
富田 満穂	関田 真太郎	林 洋子
柳 光昭	高橋 和彦	坂本 しのぶ
内田 麟太郎	江良 亜来子	杉本 彌生
川端 進	水谷 誠二	森 谷 正志
戸台 耕二	吉田 梨絵子	龜谷 満智子
石毛 拓郎	小林 邦子	技井 鶴子
渡辺 三郎	吉田 暁子	高桑 佳子
青上 郁子	若狭 麻都佳	杉村 厚子
麻生 直子	佐伯 悠子	

戦後詩選・潮流詩派の三〇年
目次

詩篇

麻生 直子 10

蛇 岬

荒木 敬介 13

自問 五月の空に

安藤 信宏 17

融雪序説 断章

石毛 拓郎 23

血を売って

石黒 忠 25

汝多くの戦友たちよ 仕掛弓・悲歌

伊豆 太朗 32

夏からの旅立ち

猪俣 則幸 35

アリベデルチ・ローマ

入船 映子 39

おんなのストーリー

岩淵 欽哉 41

土産

内田麟太郎 46

人生航路

江波戸敏倫 48

応接室

江良亜来子 50

稀薄 位置

大平 璋 53

公園

小倉 又夫 55

飢え龍

尾崎 義久 60

レッスン 機動力 なんだ てんだい

音上 郁子 65

流す アパートの鍵貸します 瑞穂の国の

加賀谷春雄 71

有楽町駅にて 軍手

神谷 毅 76

舌の夢 残波・幻郷

上山ひろし 83

地面師について なわの主張

亀谷 正志 90

お葬式

川端 進 94

なまこの国のあらかると お役目

喜多 行二 100

耐えがたい日々に 石のように 大捕り物

熊谷 直樹 107

その男

甲田 四郎 109

戦争資料展 戦争をたずねて 戦争資料展 千人針

間田真太郎 113

あいっ

小坂 厚子 117

涯 小指 白夜 幻灯 胸のポケットの意味とそ

の意義

小林 邦子 125

ガンジスのほとり

佐伯 悠子 129

手紙

坂本 脩 131

下に着る美学

重国 林 135

木槿の花の反歌

しだのぶお 141

エピグラム

島田 穂波 147

やっさん

下山嘉一郎 150

かいちろうのお囃話抄

杉村 佳子 157

それを見る

杉本しのぶ 159

破片 竜二

鈴木 茂夫 162

狐が虹を置いていく 四十年後の思い出し笑い

鈴木豊志夫 167

シーサー幻景

須田浅一郎 170

国旗と息子

高桑 馨 172

女

高橋 和彦 174

証しとして父をみる

たかはししのぶ 177

ヒロシマ幻景

たかはらおさむ 181

チューインガム

たかやまかずえ 186

爺のつぶやき 夏に TO SABITA RANI

HALDER ある日黄金に輝いていたおまえの

竹田日出夫 193

彼氏は父親です 危険な人びと 古墳の少女

タマキケンジ 199

うらぎりのものつ

戸台 耕二 203

電話

富田 満穂 205

秋気日記

仲宗根 清 208

石 心

中森 美方 213

帰魂

西中 行久 216

扉

抜井満智子 218

蜚気楼 ロートレックに ガンダーラの瞳

長谷 豊 224

カエル 大都市は海 笑いへの確信

長谷川和義 232

どこにでもある場所

林 洋子 236

樺の梢の冬芽たち かん寒かん感かん歎

原 冬木子 240

アメ降ルガ、斬新!

肥後 敏雄 244

旅人 駅

平田 好輝 250

とき

平野 利雄 253

コラージュ〈宇宙家族〉

広井 三郎 257

満開の桜

広尾 蘭 260

オリンピック・イヤー・オネスト 回廊

藤原 治 266

予定

まちえひらお 273

心身症 目よ 進行

松尾 茂夫 279

野の煙

水谷 誠二 282

文化祭 基地

村田 正夫 286

空腹について アンネは無心に 平和 馬

本橋 克行 292

幻想狂 言葉

森 彌生 295

夕月の墓(浄閑寺)

柳 光昭 301

搔く 隣人への手紙

吉田 啄子 304

とっちや おんねがい

吉田梨絵子 308

燃える 霧

若狭麻都佳 311

幼虫時代

渡辺 三郎 315

猫 屋島にて 街道

蘆谷 久三 322

てこ 目つぶし 毎日が誕生日 楽しい仕事
いれずみのネクタイ 二・二七事件

訳詩篇

秋吉久紀夫 (中国) 330

王統照 鍛冶屋のなか 愛情

印堂 哲郎 (インドネシア) 333

スタルジ・カルズム・バクリ||手

ダルマント||今朝ようやくあなたを訪ねる

エッセイ

村田 正夫 336

戦後ということなど

(あとがきにかえて)

戰後詩選
・潮流詩派の三〇年

麻生 直子

蛇

幼いものたちを呼ぶ声が

軒下を走り

村境の岬に消えてしまうと

そこはもう夜なのだ

矩形の入りくんだ堅い壁の街を歩きなれた足には

あの村をいつ通ったのか

通りすぎたのか

さだかではない

晴れた日

狂ったおんなが

篠竹の先に蛇を刺し

幼女をしたがえ

岬の道を行く

やがて

軒下に吊された蛇の粘光する腹に

剃刀の刃がすべり

土間には

椀と箸を持つ幼女がいつまでも待っていた

おんなを見ていた二人の黒人兵

あれはたしかに

私の見つめていた風景

あるいは

今日の遠い 戦場の村

(六八号 172・1)

岬

海は汐の深さをすっかり空にかえして

終日 瞑目している

こんなとき

岬にさしかかった母親は

島を出て行く娘に

ふとくらい戸籍をうちあげたりしたくなる

日陰の村が薄く水を張り

彎曲した入江の

はるかむこうに沈んでいる

(七八号 174・7)

麻生 直子

165 中野区鷺宮 3—9—5

所屬 潮流詩派

詩集 霧と少年

北への曳航

神威

岬

荒木 敬介

自問

僕の心は澄みきった空に浮かぶ

角ばった 小さな 氷の粒となつて

風に吹かれ 流され

キラキラ キラキラと光つては

その鋭さで

おのれをまた人を 苛み続けているのだろうか

僕は自らに問いかえす

おまえの心はかなしみにふるえているか

おまえの魂はどこへかえってゆくのか

五月の空に

五月の空の中には

私の愛するやさしさが眠っている

今という時に疲れはて

みあげる 五月の空

五月の空に浮かぶ雲は

地上の遍射でできる私のかげだ

私のかげよ あなたはいつも遠くにあつて

泣き笑いをしていて下さい

そうすれば私はいつも

涙と笑いをかえすことができます

涙がこんなに胸をゆるするなんて

笑顔がこんなに強い力をもつなんて

なみだもわらいも

みんなみんないきていればこそ

いきる……いきたい

私は　いきたい

今という時が胸にいたいときこそ

いつも涙のままで

いつも笑顔のままで

私の遠い流れゆくかげよ